

日々新聞

六号



世の中不負僅つらに物をあしとて愛小

阪府東大組塩町一丁目小母と娘と二人
住居の者らりさせる様も何れに

病の床ふふ〜娘の志
甘ん〜やせんと明暮
うち又さ〜小母ら
〜細き煙がふえろ

母は去る十二月廿七日の夜

小あはまむべ〜病苦を忍びて
家へ投出三休橋より身投〜て

死の娘を病人の居らぬ小警ささじりもあつ内母の入水の
由とさ〜いふ其身も共小被橋より飛入〜小折ふ〜通りこのる
小舟の上不落〜船頭あつく介抱〜命つ〜か〜ら〜し〜といふ此船頭へ
権兵衛と云〜者ありと或る人の
語りし〜茲に記す

小後改二代
子又信重

治正文板

形九

